

2000系「ミュースカイ」が鉄道友の会「ローレル賞」を受賞

空港アクセス専用特急車両 2000系(愛称「ミュースカイ」)が、このほど鉄道友の会(事務局:東京都千代田区九段南、会長:馬渡一眞)の2006年「ローレル賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「ローレル賞」は、性能、デザイン、製造企画、運用などの面で卓越していると選考委員会が認めた車両に与えられるもので、当社車両の受賞は1971年の「モ600形」、1980年の「100系」、2001年の「モ800形」に続き4度目です。

2000系「ミュースカイ」は、2005年1月29日の空港線開業と同時に空港アクセス専用特急車両としてデビューしました。車体傾斜制御装置を当社で初めて採用することで曲線通過速度を向上させ、名鉄名古屋～中部国際空港間を最速28分で結ぶなど、先進の技術を取り入れています。また、車体のカラーリングについても、従来の名鉄車両のシンボル色であるスカーレットから一新し、海上空港をイメージさせる空や海の青さと、雲の白さや水の透明感を表現するため青と白に塗り分け、一目で空港専用車両と判別できるものとなりました。そのほか、日本で初めて車両先頭部を透明のポリカーボネート樹脂板で覆い、海の透明感を演出するとともに、デッキ部の天井照明・壁面化粧板や客室内の座席や天井などを海や空をイメージさせるデザインでまとめています。

今回の受賞は、その完成度の高さと斬新なデザインなどが大きく評価されたものです。なお、同車両は昨年10月に2005年度グッドデザイン賞(財団法人日本産業デザイン振興会主催)も受賞しております。

デビュー当初の2000系「ミュースカイ」は、3両組成×10編成の計30両でしたが、輸送力向上を目指し、新造した4両組成×2編成の運行を4月から開始したほか、既存の3両組成に中間車を一両組み込み4両組成化する工事を現在実施しており、7月初旬には全12編成の4両組成化(計48両)が完了する予定です。

<4 両化したミュースカイ>



(以上)